

桜舞い散る国

李 元君 （女 18才 高校3年 ホストは三門幸枝さん）

“知ってるかい？ 桜の花びらが舞い落ちる早さを” “毎秒5センチメートル”
『秒速5センチメートル』より（註： 新海誠監督 連作アニメーション）

飛行機はついに東京成田空港に到着した。私の心は窓外の紺碧の空のようにおおらかで、爽快だった。清潔な環境、空港係員の温かなほほえみ、それらがみな今日から数日間の訪問に対する期待をふくらませてくれた。実は、飛行機を降りないうちから、気持ちが高ぶり、すぐに飛び出していけないことをもどかしく思っていた。もうすぐ、あの桜舞い散る国に足を踏み入れ、テレビや本で見た美しい光景が現実のものとなって、目の前に広がることを想像すると、嬉しさのあまり、気がおかしくなりそうだった。

やさしそうな日本人のご夫婦が私の名前を書いた紙の札を掲げて、出迎えてくれた。訪問期間中おふたりの自宅に泊まることになる。典型的な日本の家庭で、奥様は端正で物腰の柔らかな伝統的な日本女性。茶道と生け花をたしなむばかりでなく、伝統文化を深く愛し、誇りにされている方だ。自宅の造りや調度を拝見するだけで理解できる。奥様は中国語が分かるので、私との会話は中国語になる。奥様の中国文化に対する敬慕の念が窺える。交流を通して、幅広く奥深い祖国の文化を誇らしく思った。



それから数日間、私たちは、現代の最新科学技術レベルのゴミ処理場、病院、機械工場を見学し、日本の科学技術の水準の高さと、日本人の環境意識の強さに感銘を受けることとなった。日本は島国で、人口が多く、資源に乏しいが、それを日本人が深く認識しているので、限りある資源を大切にし、できる限り最大の効用を発揮させようとしているのだろう。それに引き換え、私たちは小学校以来、中国は国土が広大で資源も豊富だと教えられてきた。この資源が豊富だという観念が、かえって中国人に、資源を無駄にせず、環境を守ろうという意識を乏しくさせているのかもしれない。実際のところ、13億の人口を擁する中国からすれば、資源は欠乏しているのに。

千葉県博物館を見学して、日本文化に対する理解を深めることができた。日本文化の多くが、実のところ中国から流入したものであり、長年にわたる発展を経て、当地の風土・風習に溶け込み、独特の日本文化が形成されたのだ。最も感銘を受けたのは、日本の学校を見学した時だった。同じ年代の日本人がどのように勉強し生活しているのか、前から知りたかったからだ。日本の中学生は放課後の生活がとても豊かで、サークル活動も多彩だ。誰もが自分に合ったサークルを見つけることができる。カリキュラムの設定も中国と大きく異なり、調理や家事に関する課目もあって、真に“素質教育”（学生の個性や創造性を重んじる教育）の名に値するものだ。その上、多くの学生が放課後にアルバイトをし、自力で生活する能力を若い時から鍛えている。

訪問期間中に多くの日本人に接したが、年齢、世代を問わず、みな純粋だ。人々の行動や眼差しから見て取れる。まっすぐ目を見つめると、不純なものもなく、透き通った誠実な眼差しをしている。一緒に写真を撮らせてもらおうとお願いすると、目に喜びの色が浮かび、疑念のひとかけらもない。日本は流行の最先端を走っており、日本女性のファッションセンスは飛び抜けている。日本人の女の子はほとんど、上の方は着込んでいても、下の方は薄着にしている。街角でよく見かけるのは、上はショートコート、下はミニスカートかショートパンツ、それにブーツといった装い。靴下はハイソックス。みな自分に自信を持ち、太っていようと痩せていようと、グラマーであろうとなかろうと、そうやって自分のスタイルを見せつけながら、迫力と喜びと自信を振りまいて街を行き交っている。

ディズニーランドでは折りよく、盛大なパレードを見物できた。子供の頃一番好きだったアニメのキャラクターが華やかな装いで踊るのを見て、言葉で言い表せないほど愉快地楽しんだ。見物には買物が付き物だが、日本のサービス業の優秀さを実感した。どの店に入っても、にっこりと微笑む店員の「いらっしゃいませ」という言葉で迎えられ、店を出るときには、「ありがとうございました」の声で送られる。こういうサービスは、気持ちのよいものであり、これで不愉快になったり不機嫌になることは有り得ない。

6日間の訪問を終え、訪日青少年代表団の一員として、当地の人々から温かく迎えられ、日中友好の使命を担えたことを殊のほか光栄に感じている。同時に、自分自身の責任にも気付くこととなった。日本は隣国であると同時に強力なライバルでもある。私たち自身の努力によって祖国を発展させ、広範かつ奥深い中華文化を守っていかなければ



ればならない。中華文化は、世界の貴重な宝であると同時に、中国人一人一人にとっても永遠の誇りなのだから。

今回の旅行で唯一心残りなことは、日本を代表する桜の花を見られる季節ではなかったことだ。しかし、桜の花のように民族精神が咲き誇っていることをしっかりと見届けることができた。